

<救急関連情報>

9月9日は 救急の日

9月9日は
救急の日

令和8年9月6日から12日
までは「救急医療週間」

救急医療や救急業務に対する国民の理解と認識を深めることを目的に制定されました。

「きゅう(9) きゅう(9)」という語呂合わせに由来します！

いざという時に自分や周りの人を助けることができるよう

応急手当や救急業務についての知識を身につけませんか？

救える命を救うために
～救急車の呼び方～

救急車は

119番

緊急性が高い！と判断したら迷わず**119番**をして
救急車を要請しましょう

- 意識がない、呼吸をしていない
- 突然の激しい頭痛や胸の強い痛み
- ろれつが回らない
- 体の左右どちらかに力が入らない
- 大きなけがをした、大量に出血をしている

上記の症状以外にも**緊急を要する症状**があります。

119番通報から救急車の到着まで

119番通報では通信指令員が必要な情報をお聞きます。
救急車はすべての事項をお聞きする前に出動しています。
落ち着いてゆっくりと教えてください。

消防指令センター

救急車が必要な方

例) ① 救急車が必要であることを伝える



火事ですか？救急ですか？

救急です！



② 救急車が来てほしい住所を伝える



住所を町名から教えてください

〇〇町〇〇字〇〇です！



③ 症状(状況)を伝える



何歳の男性、女性がどのような状態ですか？

〇〇歳の男性なのですが、意識と呼吸がありません！



④ あなたの名前と電話番号を伝える



あなたの名前と電話番号を教えてください

私は〇〇〇〇です！電話番号は〇〇〇-〇〇〇です！



救急隊が到着するまでに行ってもらいたい処置がある場合は、通信指令員が指導します。
指導に従ってできる限り実施してください！

- 例) ○心臓マッサージとAEDを使った心肺蘇生法
○止血
○熱中症への対応

救急車の適正利用

救急車を本当に必要とする人のために適正な利用
をお願いします。

「救急車を呼んだ方がいいのか」「今すぐ病院に行った方がいいのか」など判断に迷ったときに、医師・看護師・救急救命士から電話でアドバイスを受けることができる仕組みがあります。

#7119

(024-524-3020)

全日24時間

※概ね15歳以上 詳細はこちら

#8000

(024-521-3790)

全日18:00～翌朝8:00

※15歳未満 詳細はこちら

救命の連鎖

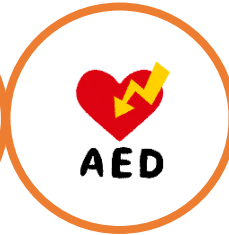
「心停止の予防」「早期認識と通報」「一時救命処置」「二次救命処置と集中治療」
これらが途切れることなく迅速に連鎖することで救命率が向上します。



「心停止の予防」



「早期認識と通報」



「一時救命処置」



「二次救命処置と集中治療」

心停止の 予防



生活習慣の改善で心停止になるリスクを低下させる、けがや溺水、窒息等に注意するなど日常生活の中で心停止を予防しましょう。
心停止につながる病気の初期症状に気づき、少しでも早く救急車を要請することも大切です。

早期認識と 通報



早期認識は突然倒れたり反応がない人の心停止を疑い、意識の確認や周囲の人に119番通報やAEDの依頼をすることです。
心停止や緊急度が高いと判断したら、すぐ119番通報をしましょう。

一次救命処置



心肺停止となっている人へ心臓マッサージやAEDを使用することです。
命が助かる可能性は時間の経過とともに減少します。
いち早く心肺蘇生法を行うことで救命できる可能性が高まります。

二次救命処置 と集中治療



救急車で駆け付けた救急隊と搬送先の医師が、薬や器具などを使用し心拍再開を促進、心拍再開後は医師による集中治療が行われます。

救える命を救うために
～救命講習～

大切な命を救うために、応急手当を身につけましょう！

伊達地方消防組合では、各種救命講習会を実施しています！
救命講習とは心臓マッサージやAEDの使い方、止血や異物を除去する方法を学びます。
自分や大切な人の命を守るために、救命講習を受講してみませんか？

詳しくはこちら↓



救える命を救うために ～熱中症～

熱中症に気を付けましょう！

熱中症は暑くなり始める5月ごろから徐々にリスクが高まり、暑さが続く9月ごろまで発症しやすくなります。
気温が急上昇し、日差しも強くなるため外出や屋外での活動には十分注意が必要です！

主な症状：めまい、立ちくらみ、大量の汗、頭痛、こむら返り、生あくび
重症化：汗をかかなくなる、意識障害、けいれん、体温40℃以上

対処：○涼しい場所へ移動する
エアコンが効いている室内や、日陰など涼しい場所へ移動する
○体を冷やす
服をゆるめて、体を冷やす（首や脇、足の付け根を冷やすと効果的）
○水分をとる
自分で水が飲めない、意識がない場合はすぐに救急車を呼ぶ



屋内での予防

○室温をエアコン等で調節し、こまめに確認をしましょう。
○屋内でもこまめに水分をとりましょう。

屋外での予防

○帽子や日傘を使いましょう。
○こまめに休憩をしましょう。
○天気が良く気温が高い日は、日中の外出をできるだけ控えましょう。

救える命を救うために ～ヒートショック～

ヒートショックに気を付けましょう！

ヒートショックは暖かい場所から寒い場所へ移動するなど、急激な温度変化で血圧が大きく変動することです。これは外気温が低い冬季に発症しやすくなり、失神や心筋梗塞、脳梗塞などを引き起こします。

症状：めまい、立ちくらみ

重症化：失神、不整脈、胸痛、頭痛、ろれつが回らない など

発生しやすい場所：冬場の冷え込んだトイレや洗面台、浴室、飲酒後の入浴や一番風呂、熱いお湯など

対処：ゆっくり座る、もしくは横になる

意識がない、ぐったりしている場合は救急車を呼ぶ（通信指令員の指示に可能な限り従う）



予防

○飲酒後の入浴を避けましょう。
血圧低下を起こしたり、転倒しやすくなります。
○部屋と部屋の温度差をなくしましょう。
○入浴時はゆっくりと温まる、長湯を控える、急に立ち上がらないようにしましょう。